~幼児期の食生活のポイント~

《5月のテーマ》

食事は1日3食、主食・主菜・副菜をそろえましょう♪

幼児期は発育が盛んです。体は小さいけれど、たくさんの栄養素が必要になります。 不規則な食生活や栄養の偏りは、肥満や将来の生活習慣病につながります。

「主食・主菜・副菜」を組み合わせて、バランスのよい食事を心がけましょう。

保育所の昼食では、幼児の1日に必要なエネルギーや栄養素の約30%を目安にバランスのよい食事を提供しています。

○主食・主菜・副菜を組み合わせた食事ってどんな食事?

【副菜】野菜やいも、きのこ、海藻などを主材料とする料理です。主に各種ビタミン、ミネラルおよび食物繊維の供給源となります。

【主食】ごはん、パン、 麺などを主材料とする料 理です。主に炭水化物の 供給源となります。





【主菜】肉や魚、卵、大豆製品などを主材料とする料理です。メインのおかずで、主にたんぱく質や脂質の供給源となります。

牛乳・乳製品や果物も1日のどこかで取り入れましょう。







〇栄養素の働き

栄養素	栄養素主な働き		主な働き	
たんぱく質	・筋肉や血液などからだの組織をつくる。 ・エネルギー源となるほか、酵素やホルモンをつくる。 ・体内の代謝活動を保ち、感染症に対する抵抗力をつ	ビタミンA	・皮膚や粘膜を健康に保つ。 ・目の働きをよくする。	
	ける。 ・効率の高いエネルギー源となるほか、細胞膜やホル	ビタミンB1	・糖質の代謝に不可欠。 ・神経や筋肉の機能を正常に保つ。	
脂質	モンの材料となる。・ビタミンA・D・Eなどの脂溶性ビタミンの吸収を助ける。	ビタミンB2	・体全体の成長を促進する。 ・細胞の再生を助けて皮膚や粘膜を健康に保つ。	
炭水化物	水化物 ・体温を保ち、からだを活動させるエネルギー源となる。		・ビタミンB1、B2と協力して代謝を助ける。 ・皮膚炎を予防する。	
カルシウム	・骨や歯の主成分になる。 ・体液の中性作用、心臓作用の調節、血液の凝固性、 抵抗力増大などの作用がある。	・皮膚や細胞のコラーゲンの合成に不可欠。 ・ストレスに対する抵抗力を高める。 ・鉄分の吸収を助ける。		
鉄	・血液中の血色素に含まれる。 ・酸素の運搬や細胞の呼吸作用に役立つ。	ビタミンD	・カルシウムの吸収を助ける。 ・骨や歯を丈夫にする。	

~おすすめレシピ紹介~

「中華風炊き込みごはん」と「カレースープ」を紹介します。

南南部西灣北縣北南北南北縣北南北南北南





【材料:幼児4人分】

			411111111111111111	
材料	材料 分量 材料		分量	
米	200g	ごま油		小さじ 1
水	280ml		しょうゆ	小さじ 1
だし用昆布	1.2g		עיל אט	と 2/3
鶏もも肉	80g		酒	小さじ2弱
にんじん	80g		塩	小さじ1/5
長ねぎ	20g		砂糖	小さじ2/3
油揚げ	4 g		水	1カップ

◆中華風炊き込みごはん

【作り方】

- ① 米は研いで分量の水につけて、昆布を入れて炊く。
- ② 鶏もも肉は食べやすい大きさに切る。 にんじんは千切りにする。
- ③ 長ねぎはみじん切りにする。
- ④ 油揚げは油抜きして、細切りにする。
- ⑤ 鍋にごま油を熱し、②を炒める。
- ⑥ ⑤に③・④を加え、A を入れて煮込む。
- ⑦ ①に⑥を加え、混ぜる。
- ⑧ 器に盛る。

※⑥の汁けが加わることを見込んで炊飯の 水を少なく設定しています。



〈1人分栄養価〉

エネルギー: 249kcal 食塩相当量: 0.7g



【材料:幼児4人分】

材料	分量	材料		分量
玉ねぎ	40g		ウスター	小さじ1
にんじん	40g	A	ソース	と1/3
じゃがいも	40g		ケチャップ	大さじ 1/2
キャベツ	40g		塩	少々
サラダ油	小さじ1		カレー粉	小さじ1/5
水	2カップ		コンソメ	小さじ1/2
		D	片栗粉	小さじ1
			水	大さじ 1/2

◆カレースープ

【作り方】

- ① たまねぎ・にんじんはさいの目に切る。
- ② じゃがいもはさいの目に切る。
- ③ キャベツはざく切りにする。
- ④ 鍋にサラダ油を熱し、①を炒める。
- ⑤ ④に水を加え、②を加えて煮る。
- ⑥ 野菜がやわらかくなったら、③とAを加える。
- ⑦ Bでとろみをつけ、一煮立ちさせる。
- ⑧ 器に盛る。



〈1人分栄養価〉

エネルギー: 34kcal 食塩相当量: 0.6g